

東京海洋大学名誉博士・客員准教授

さかなクン

Sakanakun



ハコフグの帽子と白衣の姿から繰り出す「ギョギョッ」などの
明るいパフォーマンスでおなじみのさかなクン。魚に関するテレビ
番組やイベントで引っ張りだこの一方で、絶滅したと思われる
クニマスの生息発見に貢献するなど、その活動や知見は学術界から
も一目置かれている。誰からも親しまれるユニークなキャラクター
と豊富な知識はどのように培われたのか。魚が好きになった少年時
代から現在に至るまでを、話題豊富に語っていただいた。

お魚が好きで良かった

友達のタコの絵が「魚」の世界を開いた

——魚好きで知られますが、どのようなお子さんだったのでしょうか。魚を好きになったきっかけから教えてください。

さかなクン はい！ きっかきは、小学二年生のときです。友達が何かを一生懸命に描いていたので、「何を描いているの?」と言って見ると、すきょく生命力に富んだ生き物（タコちゃん）の絵だったんです。見た瞬間に「これはすきょい！ この生き物をもっと知りたい!」と思いました。何の生き物か分からなかったので、放課後すぐに図書室に行き、いろいろな図鑑を引っ張り

出して、タコちゃんを探し当てました。

ただ、自分が食べてきたタコちゃんと図鑑の写真が結びつきませんでした。

「本物を見たい!」と居ても立ってもいられなくなり、母にねだってスーパーさんの鮮魚コーナーに連れて行ってもらい、小さなコップイイダコちゃんを見つけました。家族分を買ってもらったのですが、うれしくてうれしくて。いつまでも眺めて、絵を描き、吸盤を教えたりしました。

それから一カ月くらいは毎日

タコちゃんを買ってきてもらったのですが、そのうちに、タコちゃんの生きている姿が見たくなり、週末になると水族館さんに出掛けるようになりました。

そのようにタコちゃんを通して海の生き物と触れているうちに、「お魚もいろいろいて面白いな」と思うようになりました。

小学生の卒業文集には「将来は東京水産大学(現・東京海洋大学)に入ってお魚の研究をし、みんなに知らせたい」と書いていました。

——中学生のときには、カブトガニの人工ふ化に成功したそうですね。

さかなクン はい。中学三年生の頃、学校にカブトガニちゃんが来たんです。それを理科室で

飼うようになりました。

理科室は自分が所属していた吹奏楽部——「水槽学部」と早とちりして入部したのですが——の練習場所にもなっていて、練習の合間はカブトガニちゃんを水槽から出して散歩させ、それ以外のときは水槽に入れる、という毎日でした。

後で考えると、それがカブトガニちゃんに潮の満ち引きを思わせたようで、数カ月後に黄色いトウモロコシの粒のような卵を産んでくれたのです。

それを先生と友達と分けて、それぞれの家で飼育を始めたところ、しばらくしてわが家で次々と卵がふ化しました。感激してすぐに顧問の先生に電話をしたのですが、「それは良かったね」

カブトガニを観察する、学生時代のさかなクン（前列中央）



©2022 ANAN AND Tm.

の言葉に続けて言われたのが「ところで、今何時か知っている？」。慌てて時計を見たら、夜中の三時で、うわー、大惨事（三時）だーっ、と。時間を忘れて夢中になっていたんです。

でも、そのようにカブトガニちゃんが水槽内で産卵し、さらにふ化するというのはとても珍しいことで、当時、新聞でも大きく取り上げていただきました。

クイズ番組からお茶の間の人気者へ

——今のようなお仕事は、どういう経緯で始めたのでしょうか。さかなクン 高校三年生のとき

に、当時大人気のクイズ番組の「魚通選手権」に出演できたことがとても大きいです！

高校生ということで詰め襟の学ランを着て銚子（千葉県）の市場まで出掛けたのですが、最初のクイズは、赤身のお刺身がのった丼を完食して、並んでいる実物のお魚の中からどのお魚が使われたかを当てるというものでした。がーっと食べて、「おいしい!! これはマグロちゃんだ!! メバチちゃんかな? キハダちゃんかな?」と考えながら、お魚の所に行ったら、目に飛び込んできたのは「いつか本物を見てみたい」と思っていた大きなアカマンボウちゃんでした。夢中でアカマンボウちゃんを持って来て「アカマンボウ!」と答えを言ったら、まさかの大正解。思わず、びよびよんジャンプして大喜び戸するとそれを見て、周りの皆さまが、笑ったり拍手してくださったのです。そのときに「こーやって感動を自然に表現していいんだ。本当の気持ちは見ている人にも伝わるんだ。うれし〜い!」と初めて知りました。そして、それが今の自分に結びついています。

結局そのときは準優勝だったのですが、その後もこのクイズ番組に出る貴重なギョ機会をいただき、五連覇することができました。

——五連覇はすごいですね。でも、それは今のような活動とは別ですよな?

さかなクン はい。当時はお魚に関わるアルバイトなどをしていました。熱帯魚屋さんでは、せっかく出会ったお魚たちが一匹一匹売られていくのを見るのは「ドナドナドーナドーナ」の心境で、とつても切なくて……。

そんなときに、クイズ番組で知り合った寿司職人さんのお店で働かせていただくことになり、「職人には向いてなさそうだから、店の壁に絵を描いてよ!」と画材までそろえてくださり、アカマンボウちゃんやウマヅラハギちゃんなどを描かせていただきました。絵を描くことは小さい頃から好きで、暇さえあれば——いや、暇がなくても、学校の授業中などでも描いていました。

その絵が評判になり、「うちに



さかなクン●東京海洋大学名誉博士・客員准教授。魚の情報や正しい知識、おいしい食べ方、環境問題などをテーマに講演・啓発活動を全国各地やメディアで続けている。外務省「海とさかなの親善大使」、環境省「プラゴミゼロアンバサダー」、文部科学省「日本ユネスコ国内委員会広報大使」、農林水産省「お魚大使」など多数歴任。2010年、絶滅したと思われていたクニマスの生息確認に貢献。海洋に関する普及・啓発活動の功績が認められ、海洋立国推進功労者内閣総理大臣賞を受賞。NHK テレビ「ニュースシブ5時」の「さかなクンのギョギョ魚ななかまたち」コーナーを担当するなど、多数のメディアに出演のほか、YouTube「さかなクンちゃんねる」では独自の動画も公開している。『朝日小学生新聞』の「おしえてさかなクン」コラムを連載。主な著書に『さかなクンの一魚一会』(講談社)、『ギョギョギョ!おしえて!さかなクン』(朝日学生新聞社)など。

も描いて」とお魚屋さんや料理屋さんから声が掛かるようになりました。

そんな日々を過ごしていると、「あなたの生活は面白いですね」と、テレビのドキュメント番組で取り上げてくださいました。それを見て声を掛けてくださったのが、今所属している事務所です。

そうしたギョ縁をきっかけにして、お魚の魅力をギョ紹介するとうさかなクンの活動が始まりました。

—— 私たちが知るさかなクンの誕生ですね。

さかなクン はい、 ですが、最初は人前で話すのは苦手でした。事務所の社長からも「目が泳いじゃってるよ!」と注意されました。「あのカメラのレンズの向こうで、たくさんの人たちが、お魚の話聞きたいとわくわくしているんだよ」と言葉をいただき、自分の役割に気付くことができました。

そんな時期に出会ったのが、頭ハコフグちゃんです。小さ



著書『一魚一会』にも掲載されているさかなクンによるイラスト

©2022 ANAN 講談社 And Tm.



学生向け講演の様子

©2022ANAN And Tm.

な頃、福島県のお魚屋さんの大きな水槽の中で、大きなマダイちゃんやブリちゃんに当たって弾き飛ばされながらも一生懸命泳いでいるハコフグちゃんの方に感動しました。自分もハコフグちゃんのように、何にぶつかってもめげずに元気でいよう！ そんな思いで、頭にハコフグちゃんという、「さかなクン」の姿になりました。

—— そういうまっすぐなお気持ちだが、多くの人を惹きつけるのでしょうね。

さかなクン ギョギョ!! うれしいです。大人になって分かったのですが、「お魚が好き」「お魚をもっと知りたい」という子がいると、自分がお魚について知っててことをたくさん教えてあげたくなります。自分が小さかった頃は、お魚を見てキャッキャ喜んで、お魚の絵ばかり描いていました。すると、お魚屋さんのお兄さんや料理屋の板さん、漁師さんが、たくさんお魚のことを教えてくれました。夢中になれることがあると、つらいときでも支えになったり、それを通して仲間ができたります。

さかなクンの場合は、お魚を通して、たくさんのお魚仲間ができました。また、川や海などの環境問題、海外のことなど、お魚を通して広い世界とつながることができています。お魚が好きで本当に良かったと思います。

以前、寄稿した文章(注)で、「広い海では仲良く群れを成すメジ



さかなクンによるイラスト「広い海へ出てみよう」

©2022ANAN And Tm.

ナちゃんが、狭い水槽に入れると仲間をいじめるようになる」ということをギョ紹介したことがあります。私たちも、広い海を泳ぎ回るお魚のように、元気にレッツ・ギョー! でギョごいますね!!

—— 本日はさかなクンや魚にまつわる大変興味深いお話、本当にありがとうございました。

(注) 寄稿した文章「広い海へ出てみよう」二〇〇六年十二月二日付の朝日新聞の連載「いじめられている君へ」に寄稿されたさかなクンの文章。自身の体験や水槽の中の魚たちのいじめを紹介したもので、「広い空の下、広い海へ出てみましょう」のメッセージが反響を呼んだ。一部加筆・修正のうえ、「広い空 広い海」と改題され、著書「さかなクンの一魚一会」に収録されている。

(聞き手/情報サービス局長 渡邊昌二)